



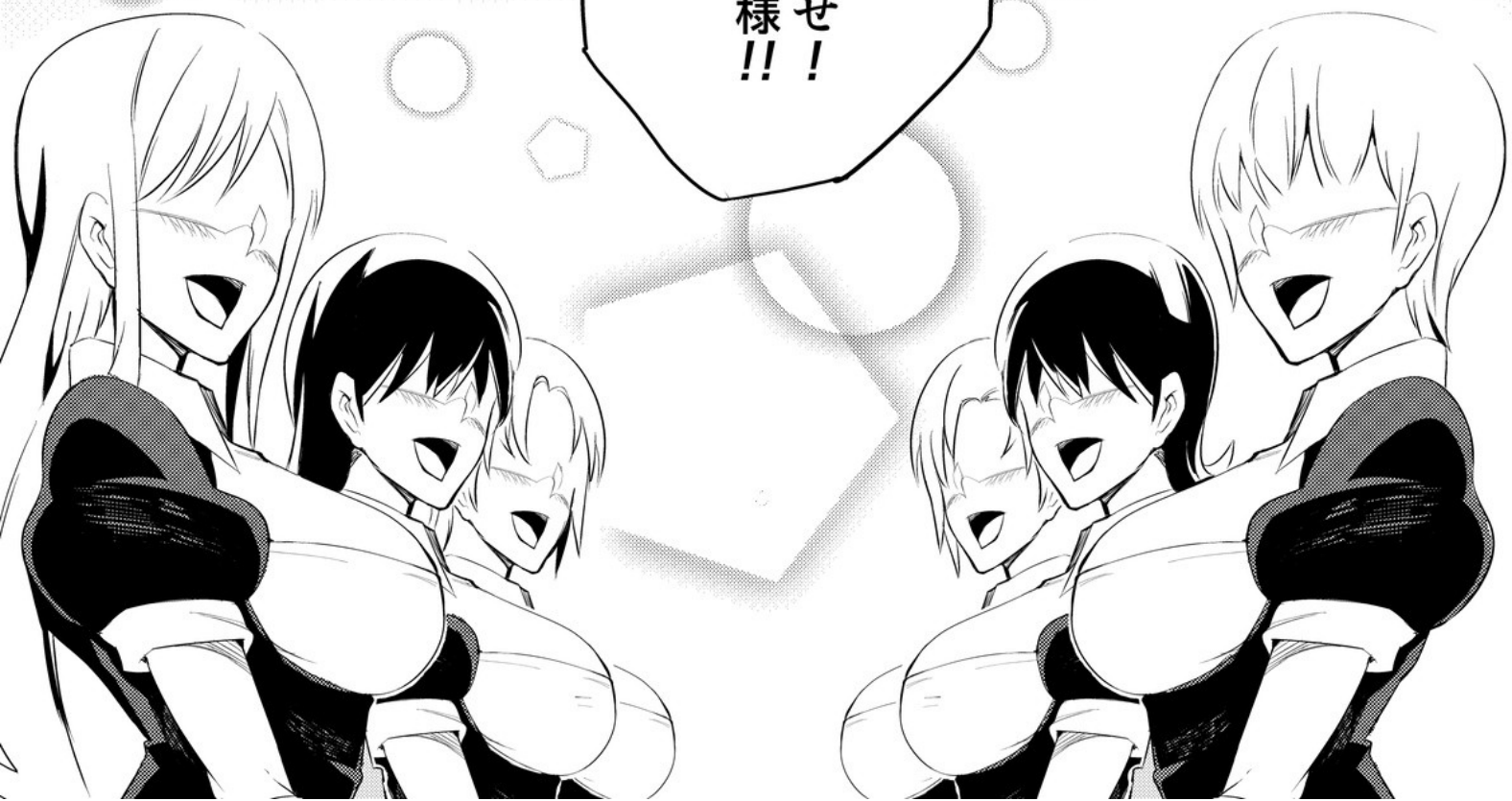
討魔戦姫

セシリア

レヴィーナの家
フィナンシエル家は
国でも有数の資産家
である

これはそんな彼女の
IF(もしも)の話

お帰りなさいませ！
レヴィーナお嬢様！！



…ごきげんよう皆さん
リリアメイド長はいるかしら

「お帰りなさいませ！お嬢様…！」

「ごきげんようリリア
私、任務で少々疲れがたまっていましたわ！」

「ですので、明日は休暇を頂きましたの！
だから『いつものように』身の回りの世話を頼みますわ！」
私の部屋へついて来なさい」

「はい！かしこまりました！」

フィナンシャル家
メイド長
リリア・トレット

「皆、お嬢様は任務で
お疲れでおられる

今日と明日、自室で休暇を取られるので

『いつものように』私はその身回りのお世話を
させて頂く…

不在の間、皆に任せる

家の皆様にくれぐれも粗相のないように！」

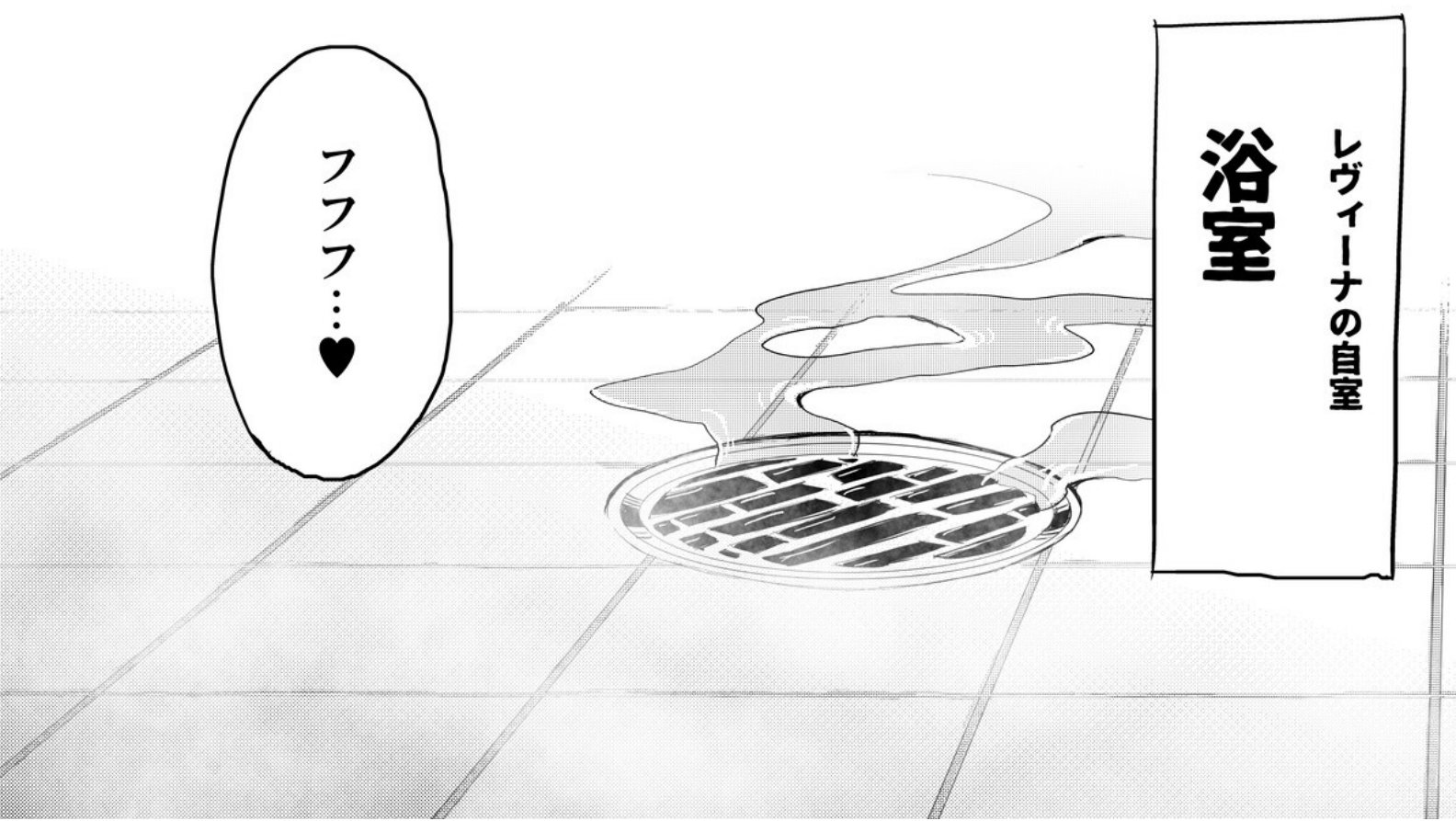
「はい！かしこまりました！
リリア様！」



レヴィーナの自室

浴室

フフフ…♡



「ウフフ…♡
素敵な格好ですわよ
リリア♡」



「はいありがとうございますお嬢様♡
リリアはお嬢様の忠実なドスケベメス犬奴隷メイドです♡
お嬢様にメイド長という素晴らしい役職を与えて頂き
その立場に甘え、メイドのみんなに偉そうに指示を出し
いばっているリリアの真の姿はこんなにも無様なんです♡
今もお嬢様から素晴らしい調教を受けたくてチンポ乳首は
ビンビンに勃起し、オマンコはビショビショです♡
どうかこのドスケベダメメイドに厳しい罰を
お与え下さい♡」

ウフフ…♡
相変わらず仕方のない
クソメイドですわね♡
ホラ！さっさと
『便座』をお開けなさい♡
お便女リリア♡

あああんツ♡
お嬢様のツ♡
愛しいお嬢様のオオツ♡
はあぁ〜んツ♡
お嬢様のお小水ツ♡
小便ツ♡
聖水ツ♡
美味しいツ♡
とっても美味しいですちゅ♡

「まだ飲んでダメですわよッ♥
さあ、ソレを私のアヌスにお浣腸なさいッ♥



「はいッ♥
お嬢様の仰せのままにッ♥
小便浣腸させて頂きますッ♥」

キてますわあッ♥
私の小便とリリアのヨダレの
ミックスお浣腸汁ッ♥」

「んがおこ

フッ
フッ



討魔戦姫

セシリア





「フハハハッ…！」

お前のような子供の心配より
自分の性欲を優先する

母親失格の豚には

罰を与えんとな…

部屋へ来いしつけてやる！」

「はいッ♥

ありがとうございます

ご主人様ッ♥」

「で…ですの…

あの子は心配いりません♥

ご主人様♥

きつと今からおマンコいじりに♥

夢中なハズ…

だから…エマにも♥

いつものように激しい調教を下さいッ♥」

「全く…いい年をして

みっともなく

発情しおって…!

セシリーはお前のような

淫乱メス豚ではないわ!!」

「ああん申し訳ございません♥

エマはどうしようもない

色狂いのメス豚ですう♥

この卑しい豚にしつけを

お願いいたします♥



イグイグ
グー!

おんおん
おんおん

じゅ
ぽ
ぽ

じゅ
ぽ
ぽ

エマは愛しい
ご主人しやまの
奴隷妻になれて
幸せです♡

好き♡
しゅき♡
愛ひてまふ♡
ご主人しやま♡

べろ
お
ぽ

「ほれッ
尻を出せ豚！
射精の後は小便だ！
ご褒美をくれてやる！」

「はあいッ♥ご主人様
小便浣腸ッ♥
エマ、小便浣腸大好物ですッ♥」



「お前の汚い尻で糞まみれになってしまったではないか！ さっさと舐めて綺麗にせんか！」

「は…はい…
あ…あの綺麗にチンポ掃除出来たらエマにうんちの許可を…
お…お腹ぐりぐりゆしてゐるので…」

「ごちやごちや言つとらんでさっさとせんか！ このグズが!!」

おご

じゅぽっ

オオオオオ
リギギ
もれ

ブリ
リ
エ



討魔戦姫

セシリア

～囚われの戦乙女 脱糞の宴と肥溜風呂～



本編では盗賊団
『フタのヒツメ団』はルナリア・
ウルファイオラ・レヴィーナの
3人によってアジトごと
制圧された

これは何らかの理由で
制圧に失敗し、3人が
卑劣な盗賊団に囚われて
しまった『もしも』の話

今回使用される
魔淫具(※)

鼻豚芯

調合された揮発性の媚薬を詰め
対象の鼻へ挿入し使用する。
その姿がまるで豚の鼻のように
見えることからこの名がついた。

自白剤や鎮静剤など詰める薬品は
多岐にわたるが、今回使用する薬剤は
『催淫剤と下剤』の2種類。



※…魔淫具：凌辱や拷問に
使用されるために作られた道具





おうわかった
すぐに射精すからよ!
オラッ! レヴィーナッ!
教えてやったように鳴け!



アクメで吹っ飛んじまって
聞こえちゃいねーや
ぶひひ...

今日も楽しい
『風呂』の時間だぜ♪

ぶひひひッ!
準備ができたってよ
レヴィーナ!

ブタのヒヅメ団
首領
キングブロイラー

やれやれ…
やっとお出ましか
待ちくたびれたぞ

そのパンパンの腹を
見る限り残飯と生ごみの
ミックススムージーが
お気に召したようで
安心したぜ

絶対！
絶対に他のワルキューレが
助けに来てくれる！
もう少しの辛抱だ！

レヴィ！！

ゲ
エ
エ
フ

クソツ…！！
下衆めツ！
よくもあんな酷い
ものを…

ゲ
フ





ぶひひッ!
昨日の夜からぶっ続けて
レヴィーナとやりまくって
なんで、また『風呂』に入れて
やろうと思っただけな
お前らと呼んだってワケだ!

オイ野郎ども!
そっちの2匹に
アレを付けてやれ!

アイサーッ!!

風呂ッ…!?
イヤアアアッ!!!
またアレをする気
ですの!?

嫌…ッ嫌ですわッ!!

き…貴様らッ!!
クソッやめろ!!
それを挿入するのは
やめろオオオッ!!



ぶひひッ!
どうだ相変わらずぶっ飛ぶだろ!
超強力媚薬! しかも下剤も
調合済みだ!!





こうして狂宴は連日続き
いつしか3人はワルキューレとして、
人間としてのプライド、尊厳を破壊され
ブタのヒヅメ団の一員、専属娼婦と
なってしまうていた...

レヴィ
「い…いったい何をするつもりですか!?
こんなことをして…!!
タダでは済ませませんわッ!!」

ヴァネッサ
「ウフフ♥
新年のあいさつのお手伝いを
お願いしようと思つてね♥」

「新年のあいさつ…っ…
どうしよう…っ…すのこ」

「アナタにはこれから
みつともない牛さんにな
つて欲しいの!」
さあ…行くわよお♥」



「フゴオツ!!
わ…私の鼻が…ツ!!
やめなさい…ツ!!
なんてことを
ぶ…無様すぎますわツ!!」

「牛さんになるための準備よ♥
鼻輪付きの開鼻器
無様な豚鼻がお似合いだわ♥」

「フゴオツ!!
今すぐ外しなさいツ!!
フゴオツ!!」

「ダメよお♥
アナタの下品な姿で支援者の皆さんに
勃起してシヨシヨしてもらうんだからあ♥
次はこれを被つてもらおうわ♥」

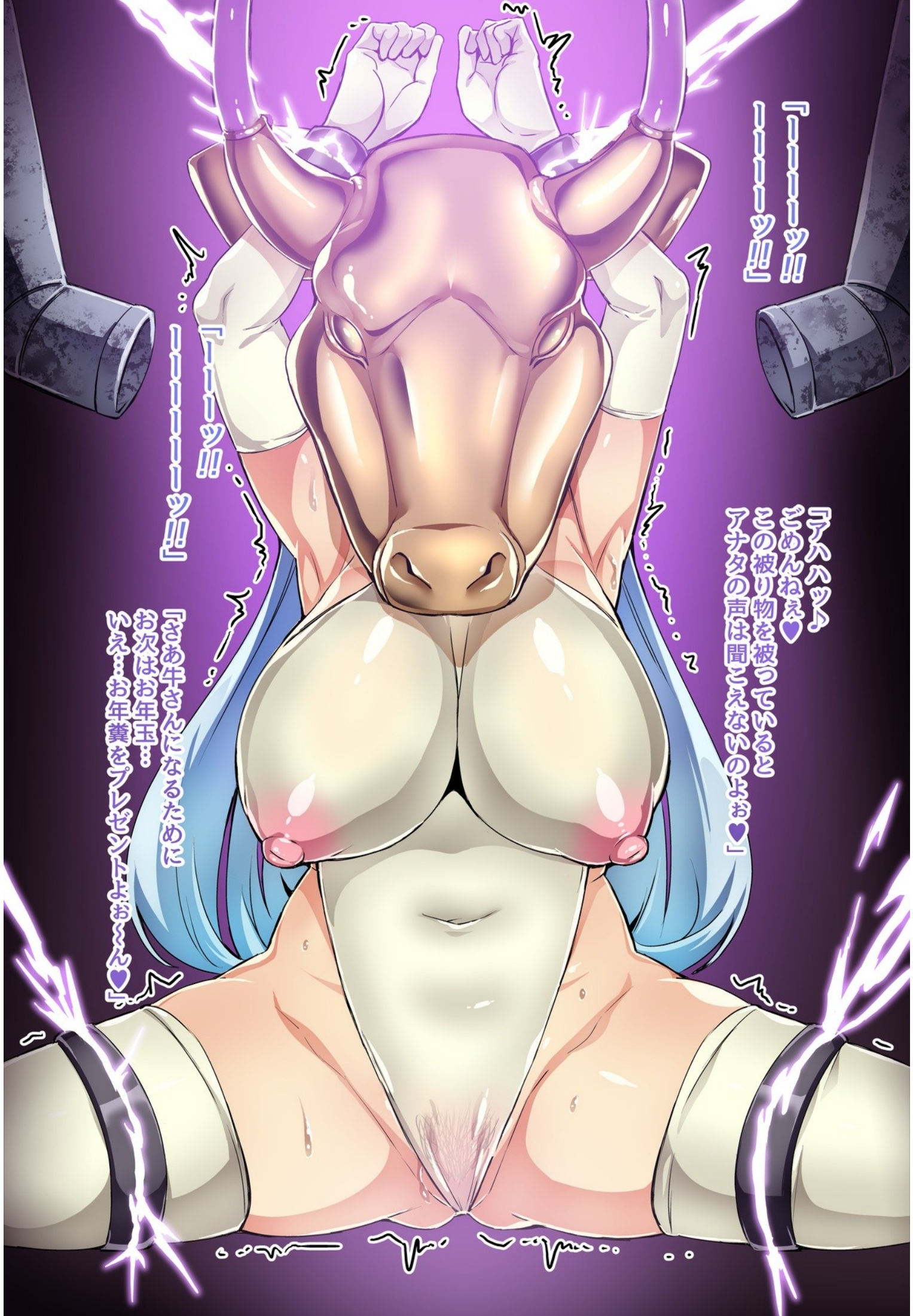


「……ッ!!」
「……ッ!!」

「アハハッ♪
ごめんねえ♥
この被り物を被っていると
アナタの声は聞こえないのよお♥」

「……ッ!!」
「……ッ!!」

「さあ牛さんになるために
お次はお年玉…
いえ…お年羹をプレゼントよお〜♥」

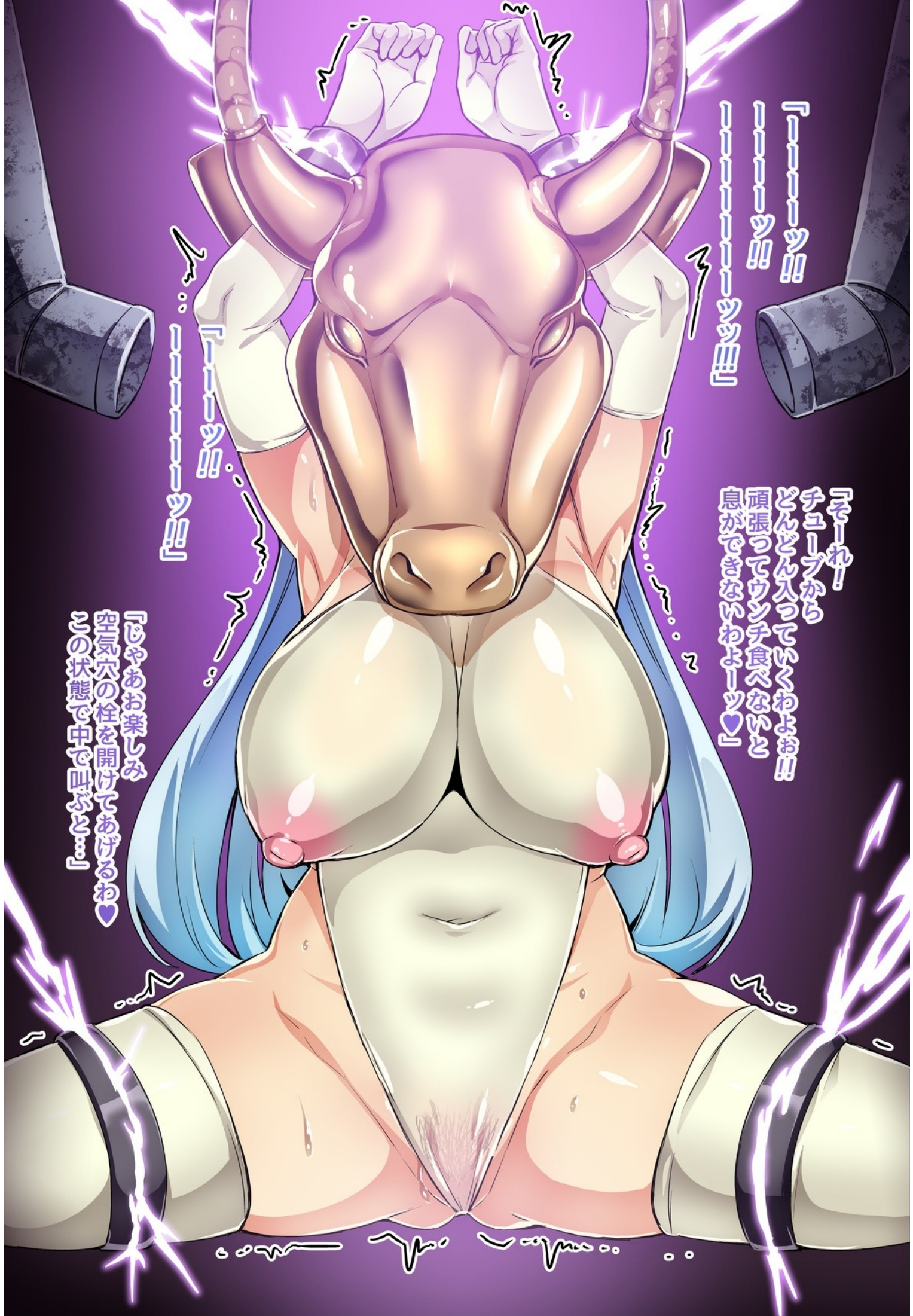


「————ツ!!
————ツ!!
————ツ!!」

「そーれ！
チューブから
どんどん入っていくわよお!!
頑張つてウンチ食べないと
息ができないわよーツ♡」

「————ツ!!
————ツ!!
————ツ!!」

「じゃあお楽しみ
空気穴の栓を開けてあげるわ♡
この状態で中で叫ぶと…」

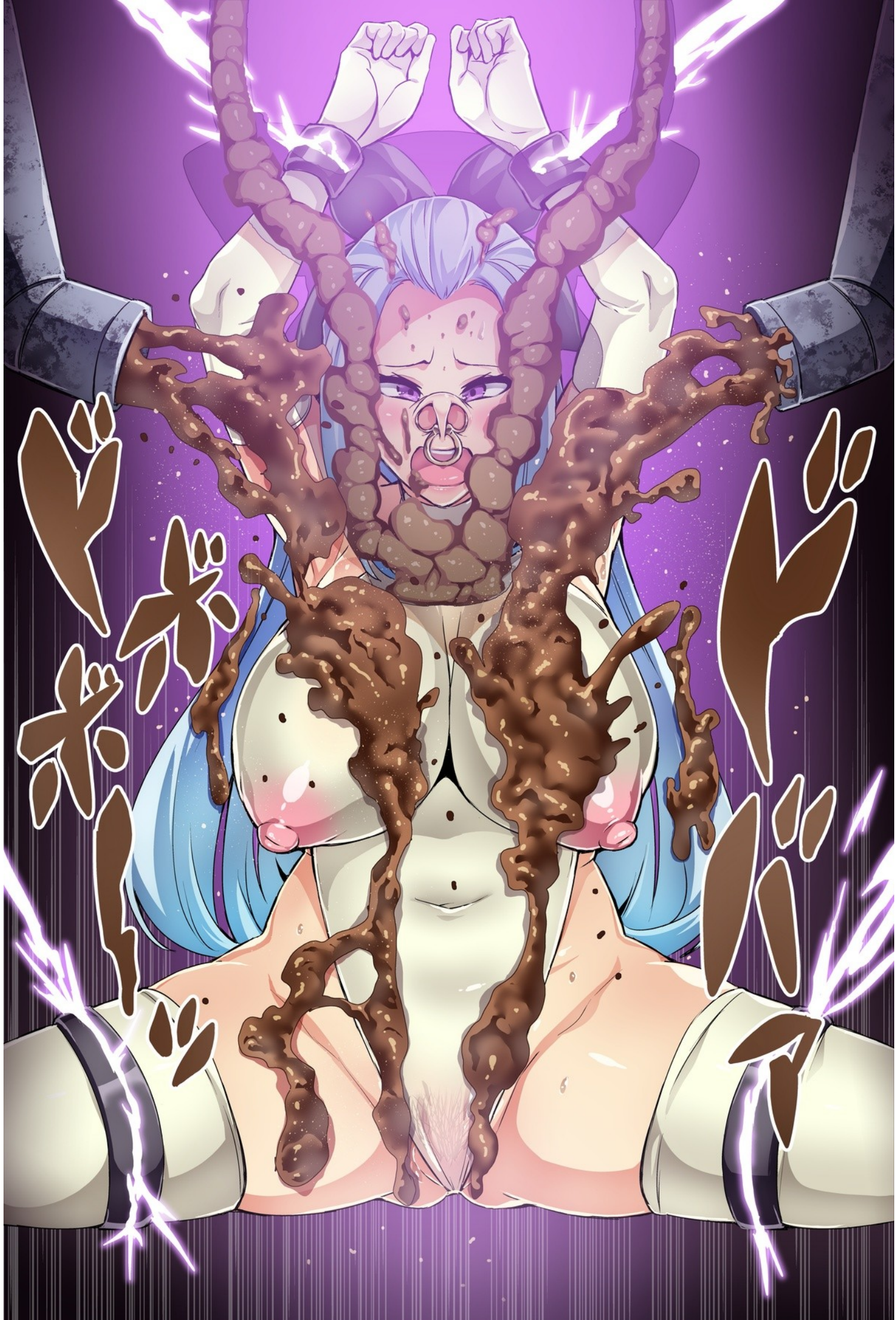




「ウフフッ♡
なんて心地の良い鳴声♡
私まで勃起してしまうわ♡」

「さあまだまだ終わらないわよ！
次はゴスチュームを
牛柄に染めるわ♡」





「これからしばらく
ウンチを食べて
ウンチを浴びて
過ごすのよ！」

「次に会う時には
とおーっても無様な
牛さんになっているはずよ♡
楽しみね♡」



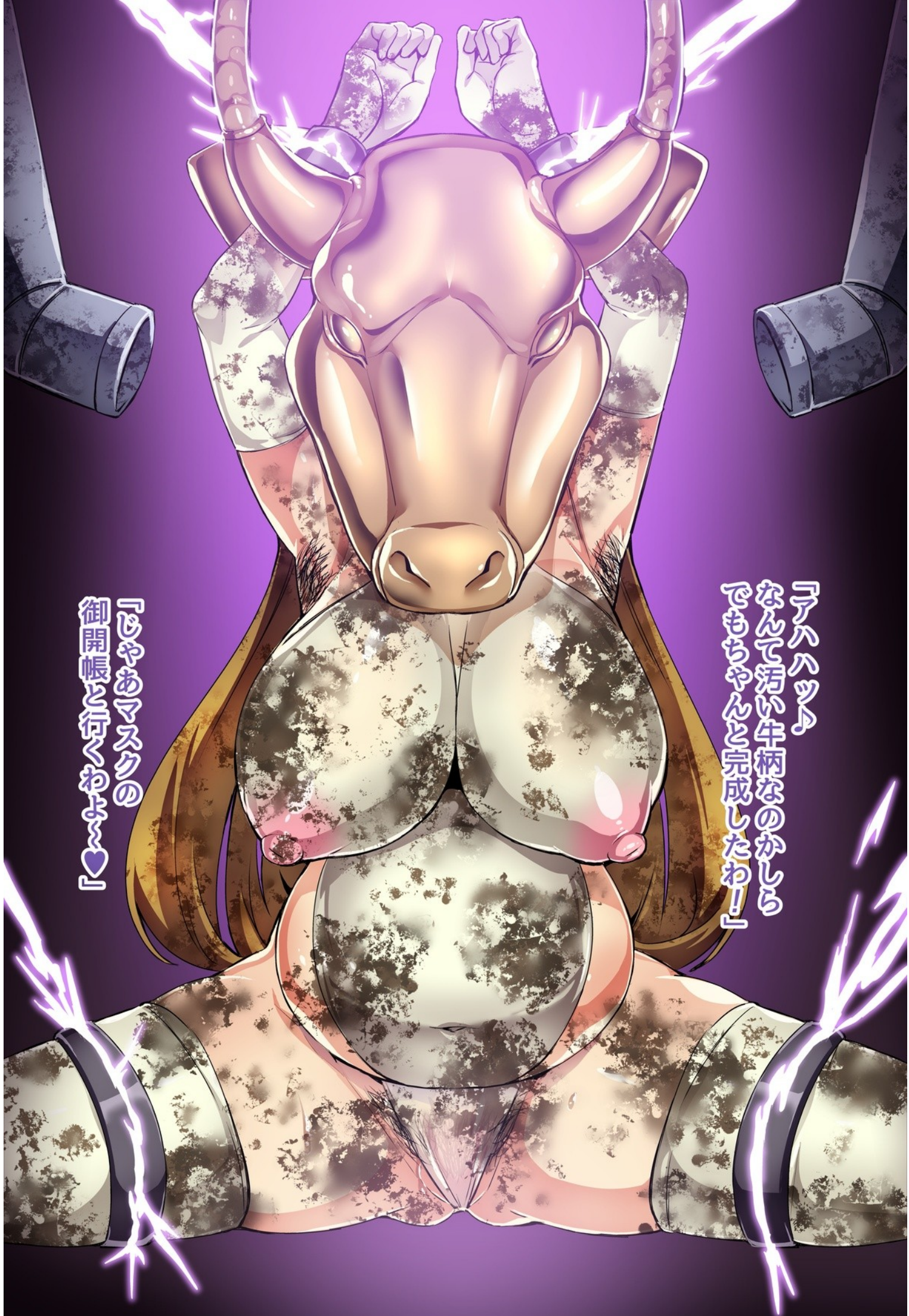


数日後

「ウフフ…♡
酷い臭いだわ♡
さて…ちゃんと無様で最低な
牛さんになれたかしら♡」

「アハハッ♪
なんて汚い牛柄なのかしら
でもちゃんと完成したわ!」

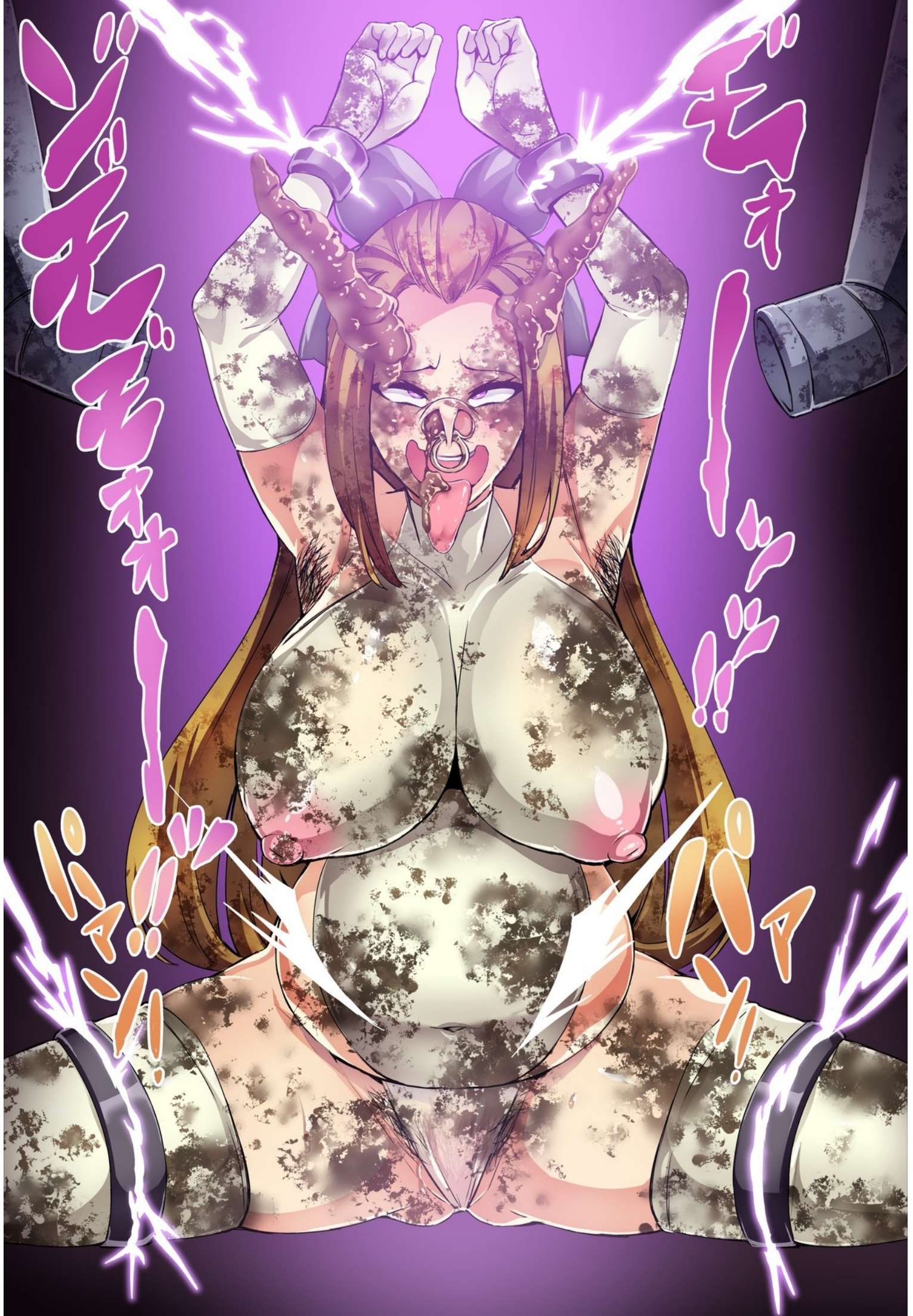
「じゃあマスクの
御開帳と行くわよ〜♡」



「ウヒヒヒッ
ちゃんと角みたい
にウンチが固ま
ってるじゃない
ww
我ながら素晴
らしい出来だ
わ♡」

「あらら〜ウンチ漬けで
すっかりイカれちゃった
みたいね♡
ウンチの仕方も忘れちゃって
お腹パンパンじゃない!」

そう言うどヴァネッサは
憐れな糞牝牛の腹部を
平手で打った…





「支援してくれてるみなさん
どうかしら？少しはセンスリの
オカスになると良いのだけど♡」

「年賀状をくれたみなさんもありがとう
今年もよろしくね♡♡」